

「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案(特別の教科:道徳)			
5年 1組	特別の教科 道徳	指導者	日田 徳生
主題名 (教材名・内容項目)	謙虚に広い心をもって 教材名「ブランコ乗りとピエロ」 内容項目「相互理解・寛容」	時	1 / 全1時間
本時のねらい	A ピエロがサムを受け入れたことについて、		
	B 人を許すことの難しさや受け入れるときの様々な考え方・感じ方を想像する学習活動をとおして、		
	C 自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。		
評価の着眼点	【多面的・多角的な見方】サムを受け入れる時の様々な考え方について、想像したことを発言したり書いたりしているかどうか。	【評価の方法】 ワークシート	
展開	めあて	広い心について考えよう。	
	課題	なぜピエロから、サムを憎む気持ちが消えたのだろうか。	
	課題 (めあて) 提示後の 問題解決の 流れ	<b>【課題(めあて) 提示後の問題解決の流れ】</b> 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めるための手立て」 ○同じように誰かへの腹立たしさが消えた、許したという経験はないか問いかける。 ・時間がたって怒りが落ち着いたことはあったけど、消えたり、許したりはないかなあ。 ・私は、ピエロと同じような経験があるよ。 ・◇◇さんの話(同じような経験)詳しく聞いてみたいなあ。 「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させるための手立て」 ○「がんばっている」と思えたら、「許せない」という気持ちは消えるのか問いかける。 ・サムががんばっているのを見て、責めたことを反省したから許したと思うよ。 ・自分と似ていると思って、サムのことを認めたからだと思うよ。 ・自分は△△さんの意見に近かったけど、◆◆さんの考えも納得できるなあ。	
	まとめ	・サムが一生懸命だから。 ・サムががんばっているから。相手の長所を認める ⇒ 許す ・サムの考えも聞かずに、一方的に責めてしまったことを反省したから。 ・自分も反省することがある ⇒ 許す	
	振り返り	今日の学習で、これからの自分にとって大切だと感じたことがあるかな。	
「C:努力を要する」 状況の児童生徒への 手立て	【予想されるつまづき】	【必要な支援・手立て】(場面・方法 等)	
	【個】漢字が未定着で読むことに困りがある。	文字を拡大したルビ付きの資料を配布	

本時のねらいの書き方について(P46、47)  
※ABCの3要素を入れる。  
A 学習の中心的内容(～について、～を)  
B 学習活動(～活動をとおして)期待する学習状況のこと  
C 道徳性の諸様相(～な心情を育てる、～な判断力を高める、～な態度を育てる 等)

道徳性の諸様相  
道徳的判断力  
道徳的心情  
道徳的実践意欲  
道徳的態度 (P25)

「評価の着眼点」の書き方について(P4～9、47)  
※道徳は、他教科のように道徳性が育ったかどうかを評価するのではなく、道徳性につながっていくような学習状況が見られたかどうかを把握する。したがって、「本時のねらい」の3要素(学習の中心的内容、学習活動、道徳性の諸様相)のうち、「学習活動」を「評価の着眼点」にする。  
※【 】には、評価の観点を記す。「自分自身との関わり」「多面的・多角的な見方」のどちらか1つに絞ってもよい。

「展開」の書き方について(P30～31、66)  
**「めあて」**  
※本時の問題意識や興味、関心をもたせ、価値や教材への方向付けを児童生徒と共有できる言葉で記す。  
**「課題」**  
※ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な感じ方や考え方によって学ぶことができる中心的な発問を記す。  
**「まとめ」**  
※話し合いで出される多様な感じ方や考え方を想定し、児童生徒が自分のこととして道徳的価値に多面的・多角的に向き合えるように整理したものを記す。  
※単に知識として観念的に理解させるため、または、特定の考え方に無批判に従わせるためのまとめであってはならない。  
※授業によっては自然な流れで集約される場合もあるが、基本的には、道徳科では複数の考えを一つの考えに教師が集約しない。  
**「振り返り」**  
※道徳的価値を自分自身との関わりにおいてとらえさせるための教師の発問を記す。  
・どのような葛藤があるのか、また、どのような意味を見いだすことができるのか など  
  
**「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めるための手立て」**  
※読み物教材において、児童生徒が自分自身の経験や価値観と結び付けて考えるようにするために、本文中の文や言葉が答えにならない発問などを記す。  
※その後の児童生徒の予想される反応を・で記載。  
  
**「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させるための手立て」**  
※一つの道徳的価値を他の側面から考えたり(多面的)、他の道徳的価値と同時に考えたり(多角的)するための補助発問や資料などを記す。  
※その後の児童生徒の予想される反応を・で記載。